

平成28年決算予算特別委員会 事業評価シート ②

分科会名	総務教育分科会
------	---------

NO.	予算科目	事業名
1	一般会計	青少年相談員事業

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別評価数
(1) 市民ニーズ 評価の視点 青少年の保護者	①きわめてニーズが高い(25点)	
	②ニーズが高い(20点)	1
	③どちらかといえばニーズが高い(15点)	2
	④どちらかといえばニーズが低い(10点)	2
	⑤ニーズが低い(5点)	1
	⑥ニーズがない(0点)	
(2) 市が行う必要性 評価の視点 ①市が関与する②他団体が行う③何もしないということを含めて市が行う必要があるか	①きわめて必要性が高い(25点)	
	②必要性が高い(20点)	1
	③どちらかといえば必要性が高い(15点)	1
	④どちらかといえば必要性が低い(10点)	2
	⑤必要性が低い(5点)	2
	⑥必要性がない(0点)	
(3) 費用に見合った効果 評価の視点 相談員活動実態と予算(148,000円)を考慮	①きわめて効果的である(25点)	
	②効果的である(20点)	
	③どちらかといえば効果的である(15点)	3
	④どちらかといえば効果的でない(10点)	3
	⑤効果が少ない(5点)	
	⑥効果がない(0点)	
(4) 目標の達成状況 評価の視点 青少年の良好な地域環境整備が図られているかという視点	①きわめて成果がある(25点)	
	②成果がある(20点)	
	③どちらかといえば成果がある(15点)	
	④どちらかといえば成果がない(10点)	6
	⑤成果が少ない(5点)	
	⑥成果がない(0点)	

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数をもとに転記したものです

分科会評価

3 分科会評価

評価	理由	分科会の評価理由
3	6 きわめて良好である 5 良好である 4 おおむね適正である 3 問題がある 2 かなり問題がある 1 不適性である	本年度から相談員の人員を半減させ、人件費を主に予算も減少している。また相談員の高齢化もあり事業そのものが曲がり角にきている。また相談員の名前から期待される目的である「相談」活動は少なく、パトロールと有害図書に対する店舗へのお願いが活動の中心になっている。青少年の健全育成という観点から考えると、守谷市では他の団体(防犯、ボランティア)でも行っている部分があるので連携・協働を模索してもいいのではないかと考える。
1	1 全会一致 2 大勢一致 ※少数意見も明記 3 要検討 ※両論併記	

分科会提案

4 今後この事業に対する提案

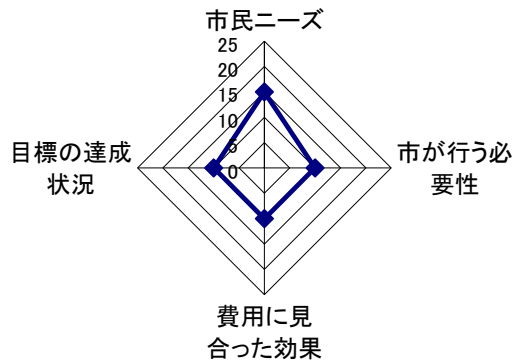
提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)
1	5 拡充する 4 改善し継続する 3 現状のまま継続する 2 見直しの上縮小する 1 休止・廃止する
3	県との事業の関わりからこの事業がスタートした経緯があるが、守谷市では色々な団体が、パトロールをはじめ挨拶運動など、活発に青少年健全化の対策を行っている。事業名をはじめ活動内容が現状に則していないことから、この事業を廃止すべきである。そして本来の事業目的を尊重するならば、手法を変えて(各種団体等)新たにスタートすべきである。
※予算措置しない	3 拡充する 2 継続する 1 縮小する

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
○ 15	青少年が立ち寄る店舗の見回りや、パトロールを行っているが、市民や保護者にはあまり知られていない。保護者も効果を実感していないと思われる。市民に知らせる事が犯罪の抑止力ともなるので、活動を知らせるべきである。また、事業の目的を読むと、ニーズを感じるが、実際の活動が現状に則していないことから事業に対しての矛盾を感じる。
○ 10	今年度から9名(昨年までは20名)の相談員に委嘱しているが、相談員の高齢化が否めない。成年雑誌の取り扱い注意や協力店の依頼なら、他の組織(防犯関係、ボランティア団体等)でも行うことができる。
○ 10	予算的には少額であるが、少額であっても効果がないのなら、やるべきでない。
○ 10	本事業の目標をどこに置くかが評価を左右する。活動そのものが地味であるため成果が華々しく表面化することは難しいが、青少年の非行を未然に防ぐのが地域の使命として考えた場合、思い通りの成果が上がっているとは言えない。特に青少年が外出禁止時間帯(23時~4時)にパトロールがなされていないことなどの現状から目標達成されていないと考える。

※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

分科会レーダーチャート



課題と反省

・評価シートについて、どちらかという高い(15点)、どちらかという低い(10点)という部分で会派ごとの意見が分かれた。評価シートのあり方、点数の配点など考え直す必要がある。

・廃止する事業ということで事業を選定してきた訳だが、そこに落とし込むため故意に総合点を低くするよう、項目ごとの評価を低くしているような感じもある。今後はレーダーチャートも考慮し、バラつきが大きいものの真意を探る努力をすべきだ。

平成28年決算予算特別委員会 事業評価シート ②

分科会名	総務教育分科会
------	---------

NO.	予算科目	事業名
1	一般会計	外国語指導助手事業

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別評価数
(1) 市民ニーズ 評価の視点 小中学生とその保護者	① きわめてニーズが高い(25点)	
	② ニーズが高い(20点)	5
	③ どちらかといえばニーズが高い(15点)	1
	④ どちらかといえばニーズが低い(10点)	
	⑤ ニーズが低い(5点)	
	⑥ ニーズがない(0点)	
(2) 市が行う必要性 評価の視点 学校教育の一貫でやらねばならないのか	① きわめて必要性が高い(25点)	1
	② 必要性が高い(20点)	4
	③ どちらかといえば必要性が高い(15点)	1
	④ どちらかといえば必要性が低い(10点)	
	⑤ 必要性が低い(5点)	
	⑥ 必要性がない(0点)	
(3) 費用に見合った効果 評価の視点 予算と活動実績を考慮した視点	① きわめて効果的である(25点)	
	② 効果的である(20点)	4
	③ どちらかといえば効果的である(15点)	1
	④ どちらかといえば効果的でない(10点)	1
	⑤ 効果が少ない(5点)	
	⑥ 効果がない(0点)	
(4) 目標の達成状況 評価の視点 英語を使ったコミュニケーション能力が身についたか(英語3級合格者数、アンケート結果を踏まえて)	① きわめて成果がある(25点)	
	② 成果がある(20点)	5
	③ どちらかといえば成果がある(15点)	1
	④ どちらかといえば成果がない(10点)	
	⑤ 成果が少ない(5点)	
	⑥ 成果がない(0点)	

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数をもとに転記したもの

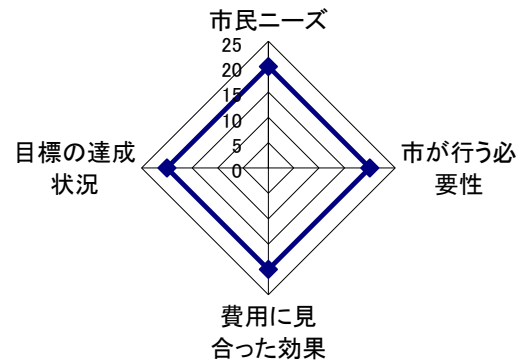
分科会評価

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
20	グローバル社会へ変わっていく世の中において、大半の小中学生やその保護者にとってALTの必要性は高い。
20	ALT以外の手法も考えられるが、市(教育委員会)が行う義務教育の中で、教育格差をつくらず、全ての児童生徒に外国人と触れ合う機会を与えていることは重要である。
20	5800万円という予算は13人のALT一人にすると約450万円/年。また、市内児童生徒数6000人ということから割り出すと、1万円/1年/一人となり、異文化交流やネイティブな発音、外国人に慣れるという多面的な効果も含め、効果があると考えられる。しかしながら、効果を数字でとらえることは極めて難しいという意見もあった。
20	英検3級合格者数や保護者へのアンケートを見る限り、合格者数も県平均の2.5倍。アンケートも90%以上が良いという結果のため、一定の達成状況にあると考える。しかし、英検合格者数が多いのはALTのお蔭という因果関係は不明である。

※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

分科会レーダーチャート



3 分科会評価

評価	分科会の評価理由
5	<p>6 きわめて良好である</p> <p>5 良好である</p> <p>4 おおむね適正である</p> <p>3 問題がある</p> <p>2 かなり問題がある</p> <p>1 不適性である</p>
2	<p>1 全会一致</p> <p>2 大勢一致</p> <p>※少数意見も明記</p> <p>3 要検討</p> <p>※両論併記</p>

分科会提案

4 今後この事業に対する提案

提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)
4	<p>5 拡充する</p> <p>4 改善し継続する</p> <p>3 現状のまま継続する</p> <p>2 見直しの上縮小する</p> <p>1 休止・廃止する</p>
2	<p>3 拡充する</p> <p>2 継続する</p> <p>1 縮小する</p>

課題と反省

「英語を話す外国人と触れ合う」ということから、一步踏み込んだ活用を考える必要がある。国際情勢や文化、歴史、芸術など、ALTの力をさらに発揮させる取り組みが必要。また、守谷市としてALTのノウハウの蓄積をきちんとする必要がある(現在は委託業者主導)。さらに、各学校毎の成績にばらつきが無いが検証し、ALTの指導力アップに努める。

平成28年決算予算特別委員会 事業評価シート ②

分科会名	都市経済分科会
------	---------

NO.	予算科目	事業名
3	一般会計	緑地管理事業

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別 評価数
(1)市民ニーズ 評価の視点 憩いの場として市民全 体のニーズがあるか	①きわめてニーズが高い(25点)	
	②ニーズが高い(20点)	
	③どちらかといえばニーズが高い(15点)	
	④どちらかといえばニーズが低い(10点)	
	⑤ニーズが低い(5点)	5
	⑥ニーズがない(0点)	1
(2)市が行う必要性 評価の視点 緑地(公園)の管理者 としての市が行う必要	①きわめて必要性が高い(25点)	
	②必要性が高い(20点)	2
	③どちらかといえば必要性が高い(15点)	2
	④どちらかといえば必要性が低い(10点)	2
	⑤必要性が低い(5点)	
	⑥必要性がない(0点)	
(3)費用に見合った効果 評価の視点 草刈りと樹木の消毒の 費用769,000円の効果	①きわめて効果的である(25点)	
	②効果的である(20点)	
	③どちらかといえば効果的である(15点)	3
	④どちらかといえば効果的でない(10点)	3
	⑤効果が少ない(5点)	
	⑥効果がない(0点)	
(4)目標の達成状況 評価の視点 公園として憩いの場と なっているか	①きわめて成果がある(25点)	
	②成果がある(20点)	
	③どちらかといえば成果がある(15点)	
	④どちらかといえば成果がない(10点)	1
	⑤成果が少ない(5点)	4
	⑥成果がない(0点)	1

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数そのまま転記したもの

分科会評価

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
5	(仮称)桜公園として整備するとされているが、現状は未完成で、公園としての機能が果たされていない。市民全体の憩いの場としてのニーズは無い。
20	この緑地は、国土交通省から占用契約している土地である。また、緑地の一部が、畜産団地の方々の生活道路として利用されていることから、市が管理を行う必要性は高い。
10	草刈と樹木の消毒は行われているが、本来の事業目的である憩いの場としての費用対効果は認められない。
5	目標の市民の憩いの場としての機能を果たしていない。事業の目的そのものを見直す必要がある。

※評価点は人数を考慮して更に議論、集約したもの

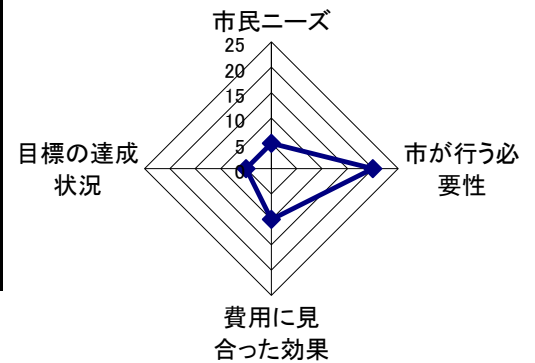
※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

分科会レーダーチャート

3 分科会評価

評価	分科会の評価理由
3	6 きわめて良好である 5 良好である 4 おおむね適正である 3 問題がある 2 かなり問題がある 1 不適性である
1	1 全会一致 2 大勢一致 ※少数意見も明記 3 要検討 ※両論併記

分科会提案



4 今後この事業に対する提案

提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)
5 拡充する 4 改善し継続する 3 現状のまま継続する 2 見直しの上縮小する 1 休止・廃止する	現状から見ると、当事業の目的である(仮称)桜公園としての整備計画は全く進んでおらず、また、市民の憩いの場としての必要性はないため、当事業を廃止するべきである。しかし、この緑地の一部は、畜産団地の方々の生活道路となっていることから、今後は廃止と同時に新たな事業として維持管理(草刈り)を行う必要がある。
予算	
※予算措置しない	3 拡充する 2 継続する 1 縮小する

課題と反省

事業開始当初、将来的には桜の名所としたいという先人の思いがあり、その主旨は理解できるものの、埋め立てた土質は桜の育成に適さず、今後も桜公園となる見込みは極めて少ない。その時点で、事業を廃止し、新たな事業として検討するべきであった。

平成28年決算予算特別委員会 事業評価シート ②

分科会名	保健福祉分科会
------	---------

NO.	予算科目	事業名
4	一般会計	私立幼稚園施策推進費補助事業

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別 評価数
(1)市民ニーズ 評価の視点 ・補助事業対象者(市内幼稚園6園)からみた視点で記入。	①きわめてニーズが高い(25点)	3
	②ニーズが高い(20点)	
	③どちらかといえばニーズが高い(15点)	
	④どちらかといえばニーズが低い(10点)	
	⑤ニーズが低い(5点)	
	⑥ニーズがない(0点)	
(2)市が行う必要性 評価の視点 ・市が補助金を出す必要があるかどうかの視点で記入。	①きわめて必要性が高い(25点)	2
	②必要性が高い(20点)	
	③どちらかといえば必要性が高い(15点)	
	④どちらかといえば必要性が低い(10点)	
	⑤必要性が低い(5点)	
	⑥必要性がない(0点)	
(3)費用に見合った効果 評価の視点 ・本来の意味の「食育」になっているかどうかを踏まえて記入。※資料「実績報告書」を参照	①きわめて効果的である(25点)	1
	②効果的である(20点)	
	③どちらかといえば効果的である(15点)	
	④どちらかといえば効果的でない(10点)	
	⑤効果が少ない(5点)	
	⑥効果がない(0点)	
(4)目標の達成状況 評価の視点 ・事業の目的や実施要項に沿ったものになっているか。	①きわめて成果がある(25点)	1
	②成果がある(20点)	
	③どちらかといえば成果がある(15点)	
	④どちらかといえば成果がない(10点)	
	⑤成果が少ない(5点)	
	⑥成果がない(0点)	

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数をもとに転記したもの

分科会評価

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
10	補助金の目的と幼稚園の形態が10年前とは変化している。申請等における時間や人手が足りず、昨年度の実績をみても6園中3園の申請状況となっている。
10	幼児教育としては食育は補助金が無くとも実施しており、この補助金の必要性は低い。また園児数が100人を超えるところと数十人の園とで同額である点からも公平性に欠ける。
10	食育の意味を体験型と捉えるのがよいと思うが、行事食等(ハロウィン・クリスマス・ひな祭り等)に偏りがみられ効果的かどうか疑問である。
10	食育という観点からは、家庭での教育や幼稚園での教育等が考えられるが、この補助事業によつての食育としての目的が達成されているとは考えにくい。また各園の取組や方向性が異なっていることから、不公平感を感じる。

※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

※評価点は人数を考慮して更に議論、集約したもの

3 分科会評価

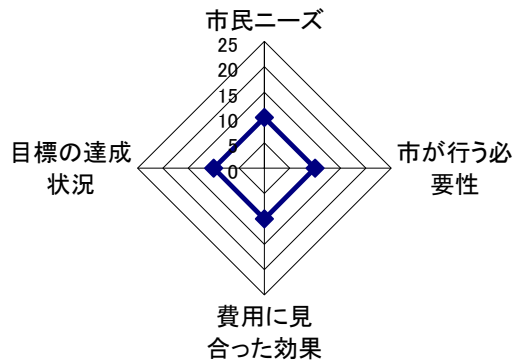
評価	分科会の評価理由
3	平成14年度から私立幼稚園連合会の要望で実施されている事業だが、平成22年度からは食育に限定した補助事業になっている。幼児期の食育は大切であるが、毎年全幼稚園が補助金の申請をしている状況ではなく、昨年度においては、6園中3園となっている。また、守谷市補助金審議会からの指摘事項として事業目的が通常の幼稚園の活動と重複し、特に補助の必要性のないことや、要綱見直し指摘されている。
2	1 全会一致 2 大勢一致 ※少数意見も明記 3 要検討 ※両論併記

分科会提案

4 今後この事業に対する提案

提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)
1	5 拡充する 4 改善し継続する 3 現状のまま継続する 2 見直しの上縮小する 1 休止・廃止する
予算	補助金を申請していなくても、食育を実施している園もあり、事業自体の必要性も低いと考える。食育は、守谷市食育推進計画を策定している保健センターの管轄において行うのが望ましい。
※予算措置しない	3 拡充する 2 継続する 1 縮小する

分科会レーダーチャート



課題と反省
評価項目における視点においてもう少し詳細に掘り下げる余地がある。